日本語のあいづちについて

あいづちからの日本国民性考察と今の課題

モイ

- **トピックを選んだ理由**
  - 他の言語のあいづちに比べ、日本語のあいづちがより頻繁に見かけられる
  - 日本文化の一つの特徴

- **調査方法**
  - ICU図書館：本
  - 国立国語研究所：本
  - ウェブサイト：本と論文
  - 江戸東京博物館：歴史背景を知る
  - 東洋学園大学模擬授業：「多文化社会を生きる」

調べてわかったこと

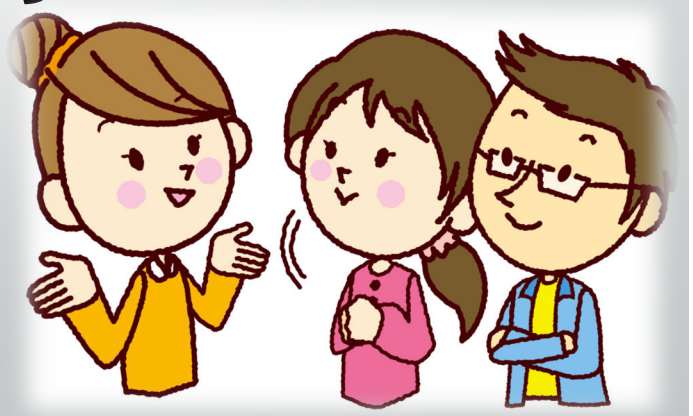
- **日本語におけるあいづちの特徴**
  - 語源—「相槌」
  - 日本語の言葉のあいづちの種類が多く、使用頻度[1]が高い
    - 水谷は合計時間34分15秒の座談会[2]、テレビ対談とラジオ番組を分析し、総計44種類、602回のあいづちを聞き取った
  - 「共話型」ｖｓ．「対話型」
  - https://www.youtube.com/watch?v=nWCtuaLfpVw （1分25秒まで）

1.頻度(ひんど)： frequency

2.座談会(ざだんかい)：symposium

- **あいづちを使う理由と効用**
  - 会話を円滑[1]にする
  - 社会関係によって違うあいづちを用い、尊敬を示す

- **日本人の国民性**
  - 「なる・ある」文化：年長者が権威[2]を持つ
  - 人間関係を重視し、感性的な民族
  - 西洋文化—個人主義；「する」文化



1.円滑（えんかつ）：smooth

2.権威（けんい）：authority

- **グローバル化世界での現状**
  - 効果
    - 外国人に良い印象
    - 理性と感性の良い組み合わせ
  - 障害
    - 反応がないと誤解される
    - 政治上非現実な言葉は理解されない

まとめ

- 日本語の特色のあいづち
- そこに表される日本文化—人間関係の重視、年長者が上位、感性的
- 課題—多文化社会を生きる
  - 自分を信じ、他人を理解し、共に生きていけるようよりよき形を求める